

2014年2月17日
株式会社日立製作所

産業機械メーカー向けに M2M クラウド型機器保守・設備管理サービス「Doctor Cloud」の外販を開始 「IT×インフラ」で、産業機械メーカーの経営効率向上と顧客サービス向上に貢献

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、これまで自社製品を対象に展開してきた M2M^{*1} クラウド型機器保守・設備管理サービス「Doctor Cloud」を、国内外の産業機械メーカー向けに外販していくことを決定し、本日から提供を開始します。

日立は「Doctor Cloud」の提供を通じて、M2M クラウドシステムの構築と、産業機械の稼働状況データ分析の支援を一括して行います。これにより、産業機械メーカーは、機械の稼働状況を常時、遠隔で把握できるため、機械の維持管理のためのコスト低減や、効率的なサービス体制の構築による経営効率向上が可能となります。さらに、日立が、ユーザー目線でのデータ分析・提案のサポートを行うことで、産業機械メーカーの顧客サービス向上に貢献します。

工場・プラントを支える重要機器である産業機器は、納入後、工場・プラントの安定稼働のため、予防保全による異常発生そのものの抑制や、異常の早期検出による迅速な復旧対応など多岐にわたるアフターサービスにより、ダウンタイム(運転停止時間)を極力低減することが求められます。しかし、これまでのアフターサービスでは、定期的にユーザーを訪問して機械の状態を確認する、または異常発生時にユーザーから連絡を受けて復旧作業を開始するという対応が一般的でした。そのため、最適なタイミングでの予防保全の実施が難しく、異常発生時には復旧までに時間を要するという課題がありました。

そこで今回、日立が外販を開始する「Doctor Cloud」を用いれば、機械の稼働状況を常時、遠隔で把握できるため、産業機械メーカーは、最適なタイミングでのアフターサービスの実施・提案が可能となります。

日立は、長年にわたる産業機械の設計・製造・保守や工場・プラントの EPC^{*2}を手掛けてきた実績と、IT メーカーとしてのノウハウを有します。そのため、取得したデータを、産業機械の設計・製造・保守に従事するエンジニアとデータサイエンティストのそれぞれのノウハウによって分析し、結果を融合させることで、ユーザー目線での有用な情報の提供が可能です。この「IT×インフラ」の技術力を生かし、2011年から「Doctor Cloud」を自社製のクレーンや空気圧縮機を対象に展開し、監視、予防保全、故障予兆・省エネ診断、設備保全管理などのアフターサービスを国内外に展開してきました。また、日立グループが包括維持管理を請け負っている上下水処理施設のアフターサービス業務にも「Doctor Cloud」を適用してきました。

今回外販を開始する「Doctor Cloud」では、遠隔監視や故障予知診断などの機器保守サービスや、予防保全計画の策定支援といった設備管理サービスを提供します。これにより、産業機械メーカーは、部品の在庫適正化やメンテナンス時期・内容の予測が可能となり、機械の維持管理のためのコスト低減や、効率的なサービス体制の構築などの経営効率向上を図ることができます。また、日立のユーザー目線でのデータ分析・提案により、顧客サービスの向上が期待されます。

さらに、ユーザー側のメリットとして、日立のクラウドを活用するため、初期IT費用を抑えて本サービスを導入することが可能です。また、産業機械メーカーが運転データを遠隔で監視できるため、トラブルの原因推定と復旧までの応急対応が迅速に行え、異常発生時のダウンタイムの低減が可能です。加えて、日立のデータ分析結果により、故障予兆診断や予防保全計画の策定支援など、産業機械メーカーが納入した機械へのサービスが充実することで、製品ライフサイクルコストの低減を図ることができます。

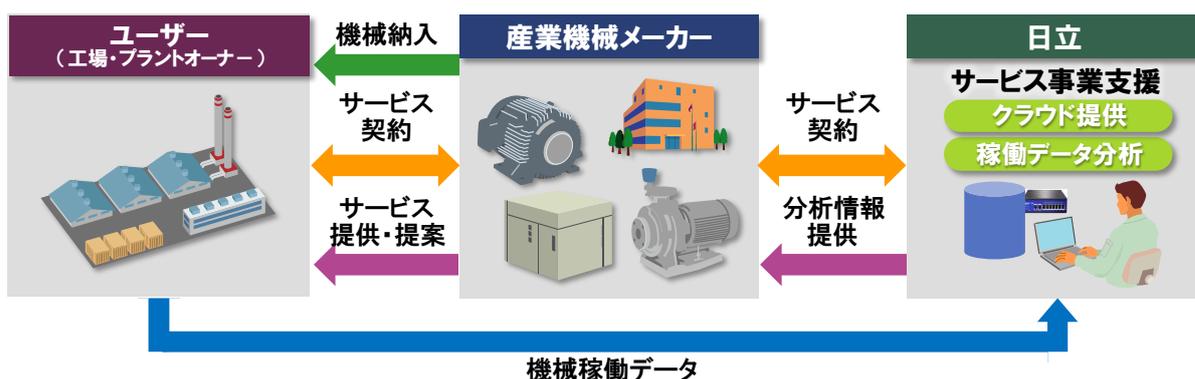
日立では、スマート情報分野における製品・サービス群を Intelligent Operations(インテリジェントオペレーションズ)として体系化しています。「Doctor Cloud」もそのラインアップのひとつとして、今後、国内外の産業機械メーカー向けに積極的に提案活動を行い、グローバルでのサービス事業拡大を図っていきます。

*1 M2M(Machine to Machine): 機械同士が人間を介さずにネットワークを通じて直接情報をやり取りするシステム。

*2 EPC(Engineering, Procurement and Construction): 設計・調達・建設。

■「Doctor Cloud」サービス提供スキーム

- (1) 日立と産業機械メーカー、産業機械メーカーとユーザーとの間で、それぞれサービス契約を締結します。
- (2) 日立は、産業機械メーカーに代わって、M2M クラウドの導入と、産業機械メーカーがユーザーに納入した機械から稼働データを収集するシステムを構築します。
- (3) 収集した稼働データは、日立のデータサイエンティストにより分析し、産業機械メーカーにその分析結果を提供します。データ分析にあたっては、産業機械メーカーのニーズに応じて、収集する情報の選定や活用方法などのコンサルティングを自社の経験に基づいて実施します。
- (4) 産業機械メーカーは、日立が提供する分析結果を基に、ユーザーに対して各種サービスを提供します。



■「Doctor Cloud」に関する Web サイト

<http://www.hitachi.co.jp/doctor-cloud/>

■「第4回[国際]スマートグリッド EXPO」での紹介について

日立は、2014年2月26日(水)～28日(金)に東京ビッグサイトで開催される「第4回[国際]スマートグリッド EXPO」において、今回発表したクラウド型機器保守・設備管理サービス「Doctor Cloud」を紹介いたします。

■照会先

株式会社日立製作所 インフラシステム社 サービス事業推進室 [担当:羽富、竹本]
〒170-8466 東京都豊島区東池袋四丁目 5 番 2 号
電話:03-5928-8046 (直通)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
